



照山 絢子 Jyunko TERUYAMA

准教授 Associate Professor

博士（人類学） Ph.D.

Keywords: 文化人類学、医療人類学、障害、教育、マイノリティ、コミュニケーション

Contact: teruyama@slis.tsukuba.ac.jp



筑波大学
University of Tsukuba

Graduate
School of
Library,
Information and
Media Studies

研究概要

病や障害、健康上の不調などがどのように語られ、定義づけられ、経験されるのか、またそのことによって生み出される患者側の知とはどういったものか、ということについて人類学的観点から研究しており、これまでは特に日本における発達障害を中心的テーマとしてきました。現在扱っているテーマは：（１）障害のある学校教員のライフストーリー研究、（２）発達障害の臨床にかかわる医師が経験する不確実性に関する研究、（３）成人発達障害者を対象としたコミュニケーション

ンスキルの向上を目指す療育・ワークショップ等に関する研究、（４）対話を通してマイノリティへの差別や偏見を減らしていくことを目的とした、「ヒューマンライブラリー」（人を貸し出す図書館）という催しに関する研究、などです。

研究指導においては特にテーマに制限を設けていませんが、特定の集団や場に集う人々を対象とし、その人々の生活や考え方、価値観などを明らかにする、フィールドワークを調査手法とする研究を支援しています。

2017年度研究概要

「人」を貸し出す「図書館」の理念と実践に関する研究（代表）

- ・障害者、LGBTなど社会的マイノリティに対する認知の向上と啓発を目的とするデンマーク発のイベント、「ヒューマンライブラリー」に関する人類学的研究

医師の抱える「不確実性」についての医療人類学的研究（分担）

- ・さまざまな病の治療実践の中で生じる「不確実性」に目を向け、現場の医師がこれにどう対処しているのかに関するチームでの人類学的研究

障害のある教員に関する研究（分担）

- ・学際的な研究者のチームでおこなっている、「障害」があつて全国の小学校・中学校・高等学校（支援学校含む）の教壇に立っている教員へのインタビュー調査

成人発達障害者を対象としたコミュニケーションのワークショップに関する研究（代表）

- ・成人発達障害者を主な対象としたコミュニケーションスキルの向上を目指す療育・ワークショップにおけるフィールドワークに基づく人類学的研究

論文

- 1) 羽田野真帆、照山 絢子、松波めぐみ（編著）『障害のある先生たち—「障害」と「教員」が交錯する場所で』生活書院、2018.3
- 2) Yasuo Murayama, Hiroyuki Ito, Junko Teruyama, and Masatsugu Tsujii: ADHD in Japan: Epidemiology, Treatments, and Cultural Influences. Global Perspectives on ADHD: Social Dimensions of Diagnosis and Treatment in 16 Countries. Meredith Bergey, Angela Filipe, Peter Conrad, and Ilna Singh (eds). Johns Hopkins University Press. 269-287, 2018.1
- 3) Teruyama, Junko: Treatment and Intervention for Children with Developmental Disabilities. Child's Play: Multi-Sensory Histories of Children and Childhood in Japan. Sabine Frühstück, Anne Walthall (eds). University of California Press. 225-242, 2017.10
- 4) 照山 絢子、堀口佐知子: 発達障害者と「ひきこもり」当事者コミュニティの比較—文化人類学的視点から「ひきこもり」に何を見るか—グローバリ化する世界と孤立する個人（鈴木國文、古橋忠晃 編）青土社、225 頁～ 241 頁、2014.11
- 5) Teruyama, Junko: Politics of Care and Ethics of Intervention in Treatment Programs for Children with Developmental Disability. Ecologies of Care: Innovations through technologies, collectives and the senses. Osaka University Institute for Academic Initiatives. 11-30, 2014.3

社会貢献活動

筑波大学公開講座「じんるいがくカフェ」での講演（平成 28 年、29 年）や図書館情報メディア系社会連携事業「発達障害児・者のためのコミュニケーションスキル講演会＆ワークショップ」（平成 27 年）の主催、公開シンポジウム『「障害」× 学校教員 —教職を多様性にひろく—』（平成 29 年）の主催などを通して、広く社会に研究成果を発信しています。また、高大連携出前授業を実施するほか、NPO 法人と連携しての講演・執筆活動なども行っています。

メッセージ

私たちが生活する社会の中で生み出される知識の中には、広く一般に認知され流通するもの以外にも、マイノリティグループや特定の病・障害の患者間など、狭い集団の中でのみ共有される、いわば「オルタナティブな知」ともいえるものがあります。長い時間をかけてそうした人々に寄り添い、語りを丁寧に掘り上げることで、こうしたオルタナティブな知にアプローチしていくような研究を目指すみなさんをサポートしたいと思います。

関連情報サイト

- 1) <http://www.tsukuba.ac.jp/notes/081/index.html>